

平成 26 年度講演会事業「日本の“農”講演会 2014 in 青森」開催結果概要

平成 26 年 10 月 22 日、青森県上北郡東北町の東北町コミュニティセンター未来館（東北町字塔ノ沢山 1-94）で、平成 26 年度講演会事業「日本の“農”講演会 2014 in 青森」を開催しました。

本講演会は、開拓営農に取り組んでいる開拓者・農業者の資質向上や営農推進を図るため、会員の所在する都道府県において毎年開催するもので、今回で 4 回目の開催になります。

開催にあたり青森県、東北町、野辺地町、七戸町、六ヶ所村、青森県酪農協会、一般社団法人青森県畜産協会、(株)東奥日報社、ゆうき青森農業協同組合、青森県開拓振興協会の 10 団体にご後援いただきました。

本年度は、講師に鈴木宣弘氏（東京大学大学院教授 農学博士）、上明戸華恵氏（フリーアナウンサー／アクティブ野菜ソムリエ）のお二人をお招きし、2 部構成で開催しました。

第 1 部は「TPP、農政・農協『改悪』の本質」と題し、鈴木氏が講演され、TPP 交渉の現状、TPP 締結がもたらすものは何か等について詳しくお話していただきました。



鈴木氏は、規制緩和し、対等な競争条件が実現すれば皆にチャンスが増えるかのように見せかけ、国民の

命や健康、豊かな国民生活を守るために頑張っている人々を欺き、TPP と表裏一体の規制改革、農業・農協改革を推進し、助け合いを支え合うルール・組織を奪おうとする「今だけ、金だけ、自分だけ」の人々に騙されてはいけないと強調した。

少数の者に利益が集中し始めると、その力を利用して、政治、官僚、マスコミ、研究者を操り、更なる利益集中に都合の良い制度改革が推進され、市場が歪められて過度の富の集中が生じる。

TPP は正に国際条約を利用して米国企業が儲けやすいこの仕組みを世界に広げることになるとし、TPP 締結による具体的な影響として成長ホルモン入り牛肉、牛・豚の成長促進剤（ラクトパミン）、遺伝子組み換え（GM）食品のさらなる拡大、ISD 条項等の問題を交えて説明した。

国は既に TPP 交渉参加への「入場料」として、日米間協議で、BSE の輸入条件緩和、自動車の輸入検査の簡略化等を前払いし、軽自動車の税金も引き上げたが、米国は自国の安全基準の採用や日本市場での米国車のシェア確保等、国家主権をも侵害する理不尽極まりない更なる要求を突き付けている。

今の TPP 交渉については、日本政府は国会決議を反故にし、「踏みとどまった感」を演出しつつ、さらに低いステージに「聖域」をなし崩し的に引き下げていくパフォーマンスを進めており、これを食い止めるには交渉の「打ち切り」しか道はないとも指摘した。

最後に、我々が地域を守っていく一番重要な点は、豪州などでは条件が全く違うため、コストは少々かかるが徹底的に物が違う、それを解ってくれる消費者との絆をさらに強化していくことである。そのキーワードは自然、ナチュラル、オーガニック、酪農畜産で言えば動物愛護、生物多様性、美しい景観であり、それらを含めて生産を頑張ることである。そうすることで、できあがった物が本物で、安全とすべてが繋がり、国民はそれを当り前として支えるスイスの事例をあげ、1 個 80 円の卵が売られ、消費者はこれを買うことで生産者の皆さんの生活が支えられる、その代りに私たちの生活も成り立つという食品流通を日本でも強化し、広げて行くことができれば少々安い物が入ってきても負けない、そういう形で皆さんの努力をさらに広げ、全国に発信していただきたいとして講演を締めくくった。

第 2 部は、「いきいききらきらを伝える～野

菜ソムリエが目指すこと〜」と題し、上明戸氏が講演された。上明戸氏は地元十和田市の出身で、元RAB青森放送㈱のアナウンサーである。現在はフリーランスのアナウンサーとして活動されている一方で、食への関心から調理師免許・野菜ソムリエ資格を取得され、野菜・果物のおいしさ、楽しさを皆さんに伝え、農業を応援して行こうと、野菜ソムリエとして地域での活動もされている。



野菜ソムリエとして、地域の宝を子供達をはじめ皆に伝えていくこと、農業のキラキラしている宝物をより多

くの皆さんに伝えていくことが大切であると強調された。そのため、十和田「こども野菜楽校」を通じて子供たちにも野菜への理解を深めてもらう活動を実践されている。講座に参加して、修了試験を受けてステージクリアということで、小学4年から6年までかかってキッズソムリエとして十和田市の応援団を育成されていることや、キッズソムリエの活動状況などについて説明した。それは子供のころから十和田市の農業を理解してもらうためであり、地元産品に誇りを持ち、作る、運ぶ、売る、多くの人の関わりがあって畑から食卓へ運ばれてくるということを実感してもらうことであり、食べ物と体との関わりをよく知ってもらうことが狙いである。

上明戸氏が野菜ソムリエの資格をとって一番感じたことは、知らないで食べるから知って食べるへ劇的な変化があったことである。栄養や体の関わり、生産、流通、栽培、土のこと、特徴や品種、歴史、味、特性など多岐に亘って色々の学びがあった。その学びを通じて野菜・果物が途端にキラキラと輝きだした。そういった面白いな、凄いなということを沢山のの人に伝えたい。伝えることでファンが増えて、日本農業の応援にもなり、皆の健康寿命にも繋がればいいなどの思いで活動している。是非、生産者からも自分で作ってい

る野菜のいい情報、面白い情報を伝えて欲しいと自身の思いを述べられた。

続いて、話題を「伝える」に移し、ご自身のアナウンサーとしての経験から人前で話すことについて講演された。綺麗に淀みなく話すことよりも、伝える、相手の心に届けることが大切であり、話すことが苦手な人は読むのでなく、伝えること。良い情報と悪い情報も話す順番で印象の与え方が異なること、スピーチのコツは、短く、結論から先に、優先順位の3点であるなど説明された。

最後に、皆さんが持っているキラキラの真の宝物をご自身の体験、技術などを自信を持って、より多くの皆さんに伝えて欲しいということ、美味しい・安心・安全には理由があることを力説。地域の宝、皆さんのキラキラを是非届けていただきたい。野菜ソムリエは地域農業の応援団であり、同志としての理解、関心を深めてもらいたいとして講演を終えた。

当日は、開拓関係者や農業者を始め、行政機関、農業関係団体、県内在住の一般消費者の皆さんなど、203名にご参加いただき、大盛況のうちに終了することができました。

